

山形県鶴岡市

【2期計画：平成30年4月～平成35年3月】

・江戸時代には城下町として庄内地方の政治・経済・文化の中心として栄えた。明治期以降、市街地には官公庁や教育施設が集中的に設置され、県内の中核都市として発展。
 ・平成17年10月1日の6市町村の合併により、新「鶴岡市」発足。
 ・人口129,652人（平成27年国勢調査）、面積1,311.53km²

【前期計画（平成20年7月～平成25年3月）の概要】

- 旧城下町としての趣を活かしつつ、空き地・空店舗を活用した商業・賑わい施設や集合住宅・福祉施設の再生、観光施設の整備等により、賑わいのある中心市街地を形成する。
- 総合保健福祉センター等の整備によりまちなか居住の環境づくりが進展した。前計画終了後、引き続き同計画の基本方針を基に活性化に取り組んだが、銀座地区等の商店街の活性化などに大きな改善は見られなかった。

【中心市街地の課題等】

- 居住人口の減少
市全体より、中心市街地の人口減少が大きいことから、コンパクトシティ形成に向け、まちなか居住の推進と交流の拡大が急務である。
- 中心商店街の停滞
銀座商店街を中心に、来街者数の減少など、にぎわいの低下が懸念されることから、空き店舗の解消をはじめ、人を呼び込むための商業機能の充実及び賑わい創出の取組が必要。
- まちなか観光の伸び悩み
市全体に比べ、中心市街地の観光客入込客数は減少していることから、ユネスコ食文化等の地域資源を活かしたインバウンドなどを取り込み、まちなか光の推進を図る必要がある。

【目指す中心市街地の都市像】

**歴史と文化、そして食で彩る城下町都市つるおか
 住み、働き、活動する場としての中心市街地再生**

【前期計画目標】

目標	目標指標	基準値	目標値	フォローアップ値	最新値
交流の拡大	主要観光施設入込客数／年	157,100人 (H18)	212,100人 (H24)	168,400人 (H24:未達成)	130,700人 (H28:フォローアップ値より減少)
	自転車歩行者通行量／日 (休日)	5,590人 (H17)	8,600人 (H24)	3,281人 (H24:未達成)	3,134人 (H28:フォローアップ値より減少)
中心商店街の活性化	空き店舗数	56店舗 (H18)	48店舗 (H24)	48店舗 (H24:達成)	40店舗 (H28:フォローアップ値より改善)
	健康・子育て・福祉施設の利用者数／年	77,002人 (H18)	108,900人 (H24)	147,948人 (H24:達成)	156,604人 (H28:フォローアップ値より増加)

【新計画目標】

目標	目標指標	基準値	目標値
「居住の場、活動の場、交流の場」としての中心市街地の再生	中心市街地居住人口の市内総人口に占める割合	5.4% (H28)	5.6% (H34)
	自転車歩行者通行量／日 (休日・平日平均)	3,994人/日 (H28)	4,194人/日 (H34)
中心市街地のにぎわいの創出	空き店舗数	40店舗 (H28)	29店舗 (H34)
	主要観光施設入込客数／年	150,800人/年 (H28)	161,800人/年 (H34)

「居住の場、活動の場、交流の場」としての中心市街地の再生

- 【主要事業】
- ・まちなか居住拠点整備事業
 - ・ランド・バンク事業
 - ・鶴岡市文化会館関連事業
- など

中心市街地のにぎわいの創出

- 【主要事業】
- ・鶴岡まちづくりブランディング事業（若者ディレクション事業）
 - ・民間誘導施設等整備事業計画事業
 - ・空き店舗等利活用推進事業
 - ・鶴岡市文化会館関連事業（再掲）
- など

まちなか観光の振興

- 【主要事業】
- ・鶴岡型DMO育成支援事業
 - ・インバウンド観光推進事業
 - ・ユネスコ食文化関連イベント事業
 - ・鶴岡市文化会館関連事業（再掲）
- など

鶴岡市中心市街地活性化基本計画の事業概要

「居住の場、活動の場、交流の場」としての中心市街地の再生

①まちなか居住拠点整備事業

公的不動産の低・未利用地などを有効活用し、多様なニーズに対応した優良な居住環境整備により、まちなかの居住人口を維持する。
【ア:駅前地区】駅前地区の特性を活かした、複合型住宅を整備

【イ:銀座地区】シェアハウスなど、若者の交流拠点となるまちなかのにぎわい拠点を整備

②ランド・バンク事業

NPO法人と連携し民間事業手法により、中心市街地の密集住宅地の空き家、空き地、狭あい道路問題を一体的に解決し、良好な住環境を整備し、まちなか居住を推進する。



②ランド・バンク事業

3.4m
5m

①駅前地区の公的不動産

③鶴岡市文化会館関連事業

音楽・演劇・ミュージカルなどの公演のほか、市民の芸術文化活動の拠点として多彩なイベントを開催することなどで中心市街地のにぎわいを創出する。さらに、エントランスホールを交流広場として開放するなど、建造物そのものの魅力により、まちなかの交流を活性化する。



新文化会館(H30.3 グランドオープン)

中心市街地 区域 : 約150ha

中心市街地人口 : 6,986人(平成28年)

● 主要観光施設

中心市街地全体 ②、⑥、⑦、
における事業展開 ⑧、⑨-エ



中心市街地のにぎわいの創出

④鶴岡まちづくりブランディング事業 (若者ディレクション事業)

銀座地区に設置する「まちづくりセンター」を拠点として、官民が連携して次代のまちづくりの担い手となる若者をターゲットに人材育成事業(ディレクション事業)を展開。都市再生推進法人の認定を視野に、エリアマネジメントの体制を構築し、まちなかをフィールドとする活動の場を創出し、人が集まる魅力的な中心市街地をつくる。

⑤民間誘導施設等整備事業計画事業

全国初の計画認定を受け、駅前地区において商業施設、多機能ホテル、フィットネス施設の大規模改修を実施し、交流人口の拡大、生活利便性の向上により、中心部のにぎわい創出につなげる。

⑥空き店舗等利活用推進事業

中心商店街に散在する空き店舗を活用して新規出店を行う事業者に対して、鶴岡TMOが開店時の初期費用等を助成することで、空き店舗の解消を促進し、にぎわいのある商店街を形成する。

まちなか観光の振興

⑦鶴岡型DMO育成支援事業

観光業、農林水産業、商工業等多様な関係者の参加による新たな観光推進組織として鶴岡型DMOを構築して、観光振興、地域製品のブランド化、広域連携によるプロモーション等を行う。

⑨ユネスコ食文化関連イベント事業

国内唯一のユネスコ食文化都市である特色を活かしたイベントを開催し、観光誘客を図る。

ア つるおか食文化映画祭(前期計画で整備したまちなかキネマを活用した食に関する映画祭)

イ 庄内酒まつり(地元全酒蔵の100種以上の地酒をまちなかで楽しめるイベント)

ウ 日本海寒鱈まつり(銀座商店街を歩行者天国にして、冬の味覚・寒鱈汁をテーマにしたイベント)

エ 食と風土の祭典(食文化に関連した様々な場所やモノをあたかも博物館のように巡るイベント)

⑧インバウンド観光推進事業

城下町をテーマとした外国人観光誘客を促進するため、外国語パンフレットやHPによる情報発信、まちなかと郊外の観光地を結ぶ2次交通の整備、無料Wi-Fiの導入、外国人の視点を活かした観光企画等を実施する。